

平成27年度第2回

まちづくりふれあいミーティング 質疑応答

市民：

創年セミナーに2年ほど参加しているが、大体6割くらいは同じ方。去年、参加者で自主企画を提案したが、カリキュラムが全て設定されてしまっているとのことだった。ミーティングのテーマに「みんなで創る これからの富里」とあるように、これからはまちづくりに市民の力も必要。そのためには、創年セミナーで学んだことを、市民活動、地域の活動で活かせるよう、自分達で勉強してみたいテーマを学べるように企画の段階から参加できるよう検討して欲しい。

市：

御指摘のとおり、創年セミナーは新しい方よりも比較的継続して取り組まれている方が多いというのが実情。なるべく多くの市民の皆さんに体験していただきたいということから、繰り返しのメニューが必ずある。しかし「学びたいことを学べるように」という視点は大切なので、プログラムの中に皆さんの提案を受け入れられるよう取り組んでいきたい。

市民：

パブリックコメントなどについて、出してみたいなと思ったことがある。提案やアイデアは持っている。それを披露する場として、市長への手紙があるが、現在ハガキしかないので書いても他の人に見えてしまう。封書の形式のものを作れば、もっと書きやすいし、直接市長に意見が言いやすくなる。成田市はそういう形式かと思う。

市：

現在は、ハガキのほかにメールで受け付けている。封書の件については、他市の状況を調査し、取り入れられるかどうか検討していく。

市民：

防災に強い富里を作るために、市民と行政が協力すべき。例えば、災害時に職員が全てパトロールというのは難しいと思うので、地域住民とネットワークを築いて、地域の状況について、連絡を取り合うのはどうか。

市：

おかげさまで、自主防災組織の活動が、日吉台小学校地区、第一小学校地区、根木名小学校地区の3地区で結成された。それぞれの地域に根差した防災について、市においても学ぶことが多くある。さらにネットワークを市内全域に広げたいと、拡大に取り組んでいきたい。防災は、自助、共助が重要だと言われている。これからも地域に根差した防災力を強化し、同時に市の防災力も強化していきたい。市の財源のみで防災をまかなうのは、なかなか難しいため、自治体同士や民間企業と助け合おうと防災応援協定を推進している。市では、岩崎家の由来で岩手県雫石町と協定を結んだところ。また、同じ岩崎家の由来で、土佐の高知県安芸市と協定が結べないか動き出している。民間企業では、去年の秋にセブンイレブンジャパンと食料品の提供についての協定、イオン成田富里店と避難所や物資の提供について協定を結んだ。協力体制は今後も積極的に拡大していきたい。

市民：

富里と言えば「すいか」、最近だと「岩崎別邸」が話題だが、「富里スイカ」はブランドものだと知っているのは関東内くらいで、全国的には無名。成田の近くと言わないと場所もわからない。もっと富里を知ってもらいたいし、富里のすいかの美味しさを知ってもらいたい。富里を発信する場所を作って、特産物でスイーツなどを販売したり、人がふれあう場所を作る。また、富里の自然を活かしてアスレチックを作るなど、富里に行かなければ体験できないようなものを作るべき。運営についても、スポンサーをつけてはどうか。

市：

観光振興と「富里」の発信について、御意見そのまま、まさにそのとおりであると思う。4月に商工観光課を新設予定だが、4月から始めるということではなく、今、目標を何にするかということに取り組んでおり、特に「富里スイカ」の市場でのブランド力のさらなる強化について注目している。その他、岩崎由来の岩手や四国とのネットワークの中で、富里を知っていただけないか。岩崎家の周りの土地を有効利用し、地元の産品を販売できないかなど考えている。また、国では地方創生が動いており、市の自主財源を使わずに交付金で事業を立ち上げられないかということについても考えている。

市民：

高齢化して大事なものは健康、お金、生きがい。中でも、自分も活躍できるんだという意欲、生きがいを持つことが大事。富里は駅がないし、マイナスな面

も色々あるが、人材がある。この人材をどう活かすかを考えて欲しい。例えば、私は航空会社に勤めていたので、他の人より外国語が堪能。教育の現場で先生を後ろから応援しながら生徒をサポートすることなどで活かせるのではないかと考えたときに、どこへ相談したらいいのかわからない。それが今後サポートセンターになるのかもしれないが、相談できる場所があると良い。

市：

御承知のとおり、市では協働のまちづくりを推進している。平成23年から本格的に動きだし、だんだん浸透してきている。おかげさまで市民活動団体を中心に盛り上がってきており、市としても、とても頼もしく思っている。保健センターの建物の1階に、3月1日から市民活動サポートセンターがオープンする。市民一人ひとりの培われてきた力をどうやってネットワークで繋ぎ、発揮していただくか、それが協働の最たるものと考えている。サポートセンターには専任のコーディネーター5人を配置するので、どんな団体で、どの場面で力を発揮いただけるか、気兼ねなく相談して欲しい。

市：

学校での外国語指導の話題が出たが、現在、教育委員会では、学校支援ボランティアバンクという登録制度があり、各学校の要請に応じて、もちろん外国語の関係、その他体験教室の支援などに協力いただいている。この制度自体が市民に広く認知されていないこと、また有効に活用されていないということから、充実させていかなければいけないと思っている。その一つの試みとして、市民活動サポートセンターと教育委員会とが連携し、市民の方々により認知してもらい、より活躍していただける場を作れないか検討していきたい。

市：

高齢者の政策として、健康寿命を延ばすということがよく言われている。「生きがい」というのは、その重要部分を占めるものと認識している。少し先になると思うが、それぞれの地域に合った、それぞれの資源を活かした介護保険サービスを作っていかなければならない状況。また、市民活動サポートセンターなども連携して、高齢の方々がどんどん社会に出て生きがいを持って活動できるような場、気軽に高齢の方が参加できるような場をつくり、健康寿命を延ばせるようなきっかけづくりについて準備を進めていきたい。

市民：

スイカロードレースを30年ほど開催している中で、経済的効果、単純に収

益があったかということではなく、全国へのアピールや市の関連行事との連携、これがどのくらい効果が出ているのか、これが市民に伝わっていないように感じる。また、スイカロードレースは個人的に、市外へのアピールと感じている。市の団結力、また富里を意識づける場づくりのために、市の枠、例えば以前のような体育祭、または学区対抗戦など、市内に向けてのアピールの場を設けてはどうか。

市：

今、スイカロードレースは実行委員会形式で行っている。スタッフの総数はボランティアを含めて1,700名。その大多数が市内在住の市民の皆さんであり、市民の協力無くしては成し得ない大会になっている。30年以上続いた大会で、特色のある大会として全国ベスト100に選ばれるような大会になっている。競技は10キロ、5キロ、小・中学生の3キロがあり、10キロと5キロについては、年齢・男女で分けられていて、レースが細かくなっている。その中に市民のイベントとしての枠を設けることや、以前に開催されていた体育祭のような趣旨を盛り込んでいけるのかについて、競技部門として検討はしてみようと思う。ただし、実行委員会で決定していくことなので、その点については御承知いただきたい。

市民：

企業誘致について、富里市の立地条件として工業排水の問題などがあると聞いたが、企業の業種を選択して誘致する計画があるのか。また、空港を利用した企業や製造業などの誘致を考えているのか。それに伴って、人口増に寄与できる政策を検討しているのか教えて欲しい。

市：

企業誘致の計画で唯一あるのが、酒々井インターチェンジ周辺。市街化調整区域であり、企業にとって基盤整備の負担は大きくなるが、それを覚悟の上で企業側から意向があれば、富里で受け入れる制度はある。ただ、そういった企業があるかどうかということになってしまう。今はまだ無いが、早急に第三工業団地の計画を模索していこうと取り組んでいるところ。その内容として、生産的な工場は、排水の流し先や工業用水などが問題で富里としてはあまり向いていない。やはり空港周辺ということもあって、流通系のニーズが高いとされている。具体的なニーズ把握はこれから取り組んでいきたい。

市：

企業誘致について、工業排水や環境汚染の話がされていたが、例えば第二工業団地は市街化区域で、昨年やっと公共下水道が供用開始し、排水は千葉の花見川までいっている。現在、市内で市街化区域の工業団地は第二工業団地のみ。製造業と先程言っていたが、第一工業団地は都市計画決定以前の工業団地だったので、地下水が汲み上げられていた。現在は千葉県内、ほとんど地下水の規制がかかっていて、製造業はなかなか難しい地域。現在、物流はかなりニーズがある。圏央道大栄ジャンクションが開通し、圏央道の埼玉県沿線では物流団地のようなものがある。

市民：

ごみ焼却場が成田に移ったが、それによって富里市や周辺地域の環境負荷、焼却の経費など、どう変わったのか。特に環境負荷について教えて欲しい。

市：

成田富里いずみ清掃工場が平成25年に開所し、富里は約25%程度のゴミ割合。最近の焼却炉、溶融化施設と言って、焼却後に発生するものも少ない。高熱の焼却であるので、ダイオキシンなども出ない。総じて環境負荷は激減したと言えると思う。具体的な数値は今手元に無いが、成田市と勉強させていただくことも必要かと思う。今、景気が上向いてきていることもあり、特に企業系のゴミが増えている。それを軽減することが直近の課題。アピールの仕方も考えていかなければいけない。

市民：

平成15年に県の健康福祉課でNPO法人を千葉県に広めようと、当時の堂本知事と一緒に1年間福祉法人でお手伝いして勉強してきた。それを平成18年に富里に持ち帰り、事情があつてNPO法人を立ち上げるのが途中になってしまった。今NPO法人を作ろうと進めているが、私だけでなく周りにはNPO法人を立ち上げたいという女性が沢山いる。福祉法人を作るにはボランティアが必要と言うが、特に子育てをしながらボランティアをしたいという30代くらいの方は、有償でなければ育っていかないと自分の経験から感じている。行政では、NPO法人や福祉法人を立ち上げたいという方に対する問い合わせやセミナーなど開催する予定はあるか。できればこれからの富里のために、NPO法人や福祉法人を立ち上げ、地域に返していきたいと思っている。

市：

福祉法人についての総合的な窓口としては社会福祉課、高齢者に関するものは高齢者福祉課に相談いただきたい。セミナーなど、今のところ開催の計画はない。今後ニーズ等含めて、必要があれば検討していかなければいけないと思う。NPO 法人については、起業という点で、市としても調べておくので市民経済環境部に相談いただきたい。

市民：

空き家対策について、富里市の状況を伺いたい。

市：

空き家の状況は以前にも調査をしたことはあった。御存知のとおり、空家対策特別措置法が施行されたため、これに基づき平成28年度は本格的に状況調査を行う予定。

市民：

道路について、いつも同じ所が凸凹していて冠水対策が進んでいないように感じるが、どうなっているのか。いつもラディソンホテル付近が冠水しているように思う。また、日吉台からジョイフル本田に向かう道を歩いている人、自転車の人がとても危ない。観光バスや大型トラックが日吉台を通っていることもあり、かなり道路も傷んでいる。

市：

道路の補修については、業者委託や職員が直せる箇所は職員で対応しており、今後もしできる限り対応する。ラディソンホテル付近は、御指摘の通り冠水が多い。該当箇所は県道で成田土木事務所が管理しており、市としても再三要望をしている。平成28年度に排水関係の調査を予定していると思う。冠水の件は県職員にも伝わっているのではばらくお待ちいただきたい。その他市内の冠水については、その場所だけを直すというわけではなく、排水なので下流まで整備しなければならないという問題がある。富里には大きい河川がなく、あるのは根木名川、高崎川の二つ。昨年度から少しずつ排水の整備をしているが、思ったように進んでいないのが現状。時間はかかるかもしれないが整備は実施していく。日吉台からジョイフル本田へ向かう道路は、以前から危ないと言われているため、できる限り安全対策を実施してきた。平成28年度から、その区間に新しく「3・4・20号成田七栄線」という都市計画道路の設計を実施する予定。現在の場所ではなく、一部変更して東関道側に開通する。時間を要し

てしまうが、しばらくお待ちいただきたい。

市民：

自治会の役員が高齢化している。近所でも高齢を理由に自治会の活動には参加できないのでやめるという方がかなりいる。先日、近所の高齢の方が風呂場で倒れ怪我をした。東京に住んでいる娘を経由し、私の携帯に連絡があったため、救急車を呼んだということがあった。高齢者対策は本来、市でやるべきものと思うが、市も社会福祉協議会も手が回らないと思う。そうなると、やはり頼るところは地域の自治会となってくる。負担については、例えば昨年販売したプレミアム付商品券の売り上げ等を自治会費にまわし、各地域の自治会費を負担してあげるなどもいいのでは。

市：

プレミアム付商品券は市の財源として入るものではないので御承知おきいただきたい。高齢者に対する見守り、これを地域でやらなければということは、今後もそうなっていくと思う。国もそれを求めている。市の職員でまかなうことも難しい。そのために区長、自治会長にお願いしているのが実状。それに対し、市としてできることは自治会活動費などの補助。市では補助事業を見直したので、総会の開催や視察だけの団体には補助は出せない。例えば、高齢者の見守りのために必要な物品等に対する補助については相談して欲しい。現在も皆さんが満足できるほどの補助ができているとは思わないが、相談いただければ検討する。

市：

市内には独居の高齢者の方も多く、必ず民生委員が訪問している。本人の了解が得られれば、緊急連絡先等の情報をいただき、必要に応じて訪問したり、介護が必要であれば在宅介護支援センターで定期的に訪問していただくようにしている。しかし民生委員の人数も限られており、すぐに臨機応変に対応ができるかという点と難しいため、自治会やボランティアの力を借りなければならない部分が発生している。今後、制度や組織的なもの、資源の発掘など、具体的に検討していければと考えている。

市民：

今まで消防団は24時間いつでも出動できる農家の人が主体となっていたと思うが、農家の減少に伴い消防団員が減ってきているのではないか。農家が主体の地域では高齢化が進み、会員として登録しているが減少しているように思

う。今は大丈夫だが、区費を払ってくれる人が減っていった場合、区長などの負担が大きくなるのでは。市民全体で区費を負担するような方法はいかがか。

市：

消防団には24時間出動態勢をとっていただいております、とても心強く感じている。現在、消防団の平均年齢は37歳くらいだったと思う。おっしゃるとおり、今後高齢化が進むこと、会社員が多くなることを心配している。例えば、会社員でも消防業務の一部について協力できる機能別消防団員や、女性消防団員として女性ならではの活躍の場など、国も改善に努めている。また、高齢化ということで肉体的な負荷を軽減するため、消防団と協議しながら機材や装備を配備している。消防団の費用を区負担から市全体で負担するという提案については、この場ではお答えしかねる。

市民：

酒々井インターチェンジ周辺の運送会社から南平台入口までの草刈りやゴミなどの管理はどうしているのか。非常に目立つゴミとして、最近大人のオムツが投げ捨てられていた。定期的に草刈りなどをしてきれいにしておけば、ゴミを捨てる人もいなくなると思う。インターの出入り口付近に富里市との看板があるが、その反対のU字溝は枯葉だらけで強風のたびに溜まる。富里市の玄関であるのでよろしくない。また、大銀杏公園の建物などの塗装が剥がれていたり、汚れていたり、ふるさと自然公園の看板についてはトラックがぶつかったのか、曲がった状態で放置されている。こういったものはどう管理しているのか。

市：

建設課で定期的にパトロールをしているので、酒々井インターチェンジ周辺についても、その際に確認する。大銀杏公園の建物とふるさと自然公園の看板のメンテナンスについては検討させて欲しい。他にも何かあれば、道路については建設課、公園については都市整備課に相談いただければ現地を確認する。

市民：

貧困層について、市としてどう把握しているのか。

市：

昨年の4月に生活困窮者の自立支援制度が開始され、市でも自立支援や就労準備支援などの相談業務を行っているところ。実際、対象になっている方は直接相談に来てもらい対応していることがほとんどなので、潜在的な貧困層を全

て把握するのは難しい。色々なところから情報を得て、積極的に出向くことも必要かと思うが、現状では相談件数も多いのですぐに動きだすことは難しい。

市民：

成田富里徳洲会病院が開院したが、これまでの救急搬送件数は何件か。

市：

開院した9月～12月まで、270件搬送している。この期間、日赤へは222件となっている。徳洲会病院への搬送の影響で、日赤への搬送の総件数が減っていると聞いている。

市民：

新年度の小学校入学児童数は何人か。

市：

入学説明会など、手続きの途中であるのでまだ確定していない。確定次第、お伝えしたい。

市民：

公会計制度の導入について、伺いたい。

市：

市では公共施設、公共財産、資産の状況について正確に把握するための台帳整理を行っているところ。来年度においてはシステムの導入を決定し、準備を進めている段階。

市民：

高齢者の方が集まりやすく、癒される場所が欲しい。例えば、折角素敵な図書館があるので、イルミネーションを設置したらもっと素敵だと思う。また、高齢の方は散歩をしている方も多いので、その際にちょっとしたお茶ができるような東屋的なものがあるといいのでは。高齢の方が運営し、自分達で支え合えるような場所があるといいと思う。

市：

おっしゃるとおり、あったらいいなと思う。各地域で進んでいるところは何かそのような場所があるので、市内に広げられればとは思っている。具体的な動き

はこれから。時間がかかるかもしれないが増やしたいと思う。

市：

図書館のイルミネーションも和やかなアイデアと思う。教育委員会では、まだ内部的なものではあるが、市民の皆様のためのスペースを拡充しようと協議をしている最中。図書館の在り方を含めて、集まりやすい場所の創設というのを1つテーマとして、今後検討していく。

市民：

まちづくりふれあいミーティングについて、一方通行の会議だから行かないほうがいいのではないかと友人からアドバイスを受けていたが、来てみたらラウンド式になっていて、とても良かった。ただ、内容は市民と市側のキャッチボールのみ。できれば部毎など細かくラウンドテーブルを作り、専門的な話ができるように、また横のつながりができるようにして欲しい。最後の1時間を現在のQ&A方式にすれば、もっと充実して沢山の人が出席するのではないか。

市：

まちづくりふれあいミーティングは市民と市長のコミュニケーションの場として設けているが、来年度に向けて検討させていただく。

市民：

まちづくりふれあいミーティングに、若い人にもぜひ参加してもらえるようにして欲しい。

市民：

ふれあいミーティングに初めて参加した。その前にホームページで以前の議事録を見たが、HPだけだと周知させることは難しいと思う。参加者数も掲載されているが、毎回非常に少なく、ずっと同じことをやっている印象。例えば広報号外のようなものを作ったりして周知するなど、手段を考えてはいかがか。

市：

広報については、開催しましたという記事は掲載できるが、内容についてはスペースの関係で載せられないため、ホームページで対応している。あらゆる周知方法を検討するが、予算内で広報活動しなければならないので、今後もホームページでの周知を継続しつつ、予算がかからずに周知できる方法、例えば若い人にはFacebookなど検討していきたい。